

# 盛岡の巨岩を代表する三ツ石 この地に伝わるさんさ伝説

7月21日

祭りの無事と成功を祈り  
ミスさんさ・さんさ太鼓連が  
この地に舞う



この石には次のような伝説が語り継がれています。

『伝説によると昔この地方に羅刹らせつという鬼が住んでいて付近の住民をなやまし旅人をおどしていました。そこで人々は三ツ石の神にお祈りをして鬼を捕まえてもらい境内にある巨大な三ツ石に縛り付けました。鬼は二度と悪さをしないし、又二度とこの地方にはやってこないことを誓ったので約束のしるしとして三ツ石に手形を押させて逃がしてやりました。この岩に手形を押したことが「岩手」の県名の起源といわれ、又鬼が再びこないことを誓ったのでこの地方を「不來方こずかた」と呼ぶようになったと伝えられています。鬼の退散を喜んだ住民達は幾日も幾日も踊り、神様に感謝のまごころを捧げました。この踊りが「さんさ踊り」の起源といわれています。』

